

令和7年度第1回北杜市子ども・子育て会議 会議録

開会日時 令和7年5月26日(月) 開会:10時 閉会:12時

開催場所 北杜市役所西会議室

出席者

民生委員・児童委員協議会会長 清水 真理子 委員長
帝京学園短期大学教授 吉田百加利 副委員長
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)会長 小澤志保子 委員
北杜市母子愛育会会長 波木井みゆき 委員
北杜市食生活推進協議会会長 茅野キヨ子 委員
北杜市放課後子ども教室コーディネーター代表 矢崎 元子 委員
北杜市 PTA 連絡協議会会長 溝口 奈緒美 委員
北杜市 PTA 連絡協議会副会長 中沢 佳弘 委員
北杜市 PTA 連絡協議会副会長 鳥屋尾 健 委員
北杜市保育園保護者連合会会長 田中 貴雄 委員
北杜市保育園保護者連合会副会長 関 育代 委員
北杜市校長会 代表 宮崎 克美 委員
防災ママ@北杜 副代表 大久保 香 委員
北杜市保育協議会副会長 前田 久美 委員

(事務局)

子ども政策部長 小澤哲彦、子育て政策課長 土屋 直己、
子育て政策課子育て応援担当 篠原 伸宗、子育て政策課総務企画担当 小林 静香
子ども保育課長 三井 智昭、子ども保育課保育担当 藤原 昭訓
ネウボラ推進課長 坂口 美穂、ネウボラ推進課保健指導監 小泉 敏美
ネウボラ推進課ネウボラ推進担当 有賀 道子

欠席者

民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)副会長 清水もとみ 委員
北杜市商工会会長 小野 光一 委員
北杜市保育協議会会長 日向 五十鈴 委員

議題

- (1)北杜市子育て支援策の概要について
- (2)母子保健について

(3)その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人 0人

議事

- (1)北杜市子育て支援策の概要について
—資料に基づき事務局から説明—

委員

保育園の配置基準や手のかかる子へのフォローをどのようにしているか教えて欲しい。
病児・病後児保育園の保育料について1日 2,000 円と説明があったが、費用負担を無しにすることはできないか。

事務局

保育園の配置基準について、国の配置基準では0歳児3名に対して保育士1名、1歳・2歳時はこども6名に対して保育士1名、3歳児については昨年度見直しがあり、こども15名に対して保育士1名、その前はこども20名に対して保育士1名。4歳・5歳児については25名に対して保育士1名、その前はこども30名に対して1名。北杜市においてはこの配置基準は満たしている。気になる子等については園長と話をしながら、加配という形で保育士を配置するよう努めている。現状、保育園から要望がある人数については、賄っている。また、本市においては1つのクラスで2名の保育士を配置したいと考えているので、0・1歳児で1クラスあった場合に保育士1名で賄えるが、2名いないと保育士への負担が掛かるので、そのような配置を基準としている。現場もしっかり対応できるように、昨年度は5名の保育士を採用した。今年度は3名程度募集する予定。県内の短大にも出向き、北杜市の採用募集のお願いをしてきた。

病児・病後児保育園は非課税世帯は無料だが、通常は1日 2,000 円の保育料が掛かる。昨年度から市と県の補助制度があり、1日あたりの保育料は 1,000 円となっている。委員の御意見も踏まえ、今後しっかり検討していきたい。

委員

保育士の募集をかけても申し込みが無いと聞いているが、原因は何かと考えたとき給料が安すぎる。愛着障害は親や家族でなくても周囲の人が愛情を注ぐと解消される。なるべく小さいときには大勢の人の手で育てるという環境を作ってあげたい。保育士の大変さを思えば、給料を上げてほしい。

委員

ぶんぶぎの利用が少ないと聞いている。0~3歳のこどもの特性を親が理解して、こどもに対応した育て方・関わり方というスキルが醸成されないと、成長したときにやり取りが困難になる。子育て支援センターで年長までは遊びやスタッフに相談することができる。発達特性のあるこどもを育てている親御さんも個性だと思って受け止めているが、5歳児相談や就学時健診のときに支援が必要ではないかと言われたときにサポートルームを紹介される。サポートルームはどちらかというと入学後

のこどものサポートを主に考えていて、未就学児の支援は未就学児の担当がやっていて、現場の連携が取れていない部分がある。育て方に課題のあるこどもの支援を教育委員会、サポートルーム、福祉あるいはかざぐるまで連携が取れるような形を考えてほしい。

支援が必要な子に対して特別児童扶養手当があるが、知らない家庭もいる。障害のある未就学児の療育施設が平成23年に閉鎖され、該当の家庭は市外に通っている。移動に時間が掛かり、仕事しながら療育をしているのが大変な家庭がある。困りごとを誰に相談したらいいのかと困っている保護者がいるので、この点も検討していただきたい。

事務局

ぶんぶぎは発達で気になるこどもについて生活支援、例えば着替えや集団遊びを含めた教室を週に1回行っている。先生が2人付いて、5組くらいの親子が来ている。定員がいっぱいで新しいこどもを受け入れるには調整が必要な状況。健診や保護者からの相談等からも利用に繋げている。ぶんぶぎの他に5歳児相談や就学時健診でも特性のあるこどもについては、教育委員会、福祉課、ネウボラ推進課、子育て政策課等関係する部署には声を掛けて情報共有している。発達特性についてはこどもによって違うため、ケースに応じて対応している。必要な支援に繋がれるように対応しているので、その点は御理解いただきたい。

委員

保育の時期と就学したあとの分断を感じている。今まではひよこルームで先生に相談できていたが、入学すると突然無くなってしまう。学童の先生も忙しそうだし、わくわく教室の先生方も楽しい遊びを提供してくれているが、相談したいときの窓口が思い付かない。教育委員会と連携しながら、小中学生に対して何か施策がないとみんな困っているのではないか。説明資料の中に小中学生に関するものが学童とわくわく教室しかない。貧困、いじめ、障害、不登校に対して、何か具体的な取り組みがあるか。

事務局

こども計画で小中学校については、教育委員会所管の計画と整合性や連携を図っている。先程の内容については教育委員会が所管というものが多々ある。教育委員会の事業内容や、各小中学校の取り組みについては、それぞれでしっかりやっていると考えている。保護者の意見として、相談窓口が無くなるということについては、教育委員会や学校と連携を取っていかないといけない。

委員

以前、この会議では小中学校のことが多く関わってくるので、教育委員会の職員も出席してほしいとお願いしたが。

事務局

教育指導監に出席要請はしたが、本日は欠席となる。

委員

小中学校の問題が深刻化している中、子育ては小学校で終わるものではない。継続することが大事。

委員

重層的という言葉が使われているので、私達も相談を受け、どこに繋がればいいのか。また、自分達ができることもしていくという立場にいる。1枚図の中で、こんなところもある、ここへ繋がれると考

えたとき、高校生までが少し薄くなってしまっている。学校の中でも考えているので、全くやっていない訳ではないが、見える形でまとまるとネウボラの意味がより深くなるのでは。

委員

以前、現場にいた。保育園から小学校に上がったときに、求められるものが子どもにとって全然違う。ギャップがあるのを感じている。小学校の先生も保育園を知ったり、保育園の先生も学校を知ったり、相互の交流が理解し合うという点では必要。小・中学校では、中学校の先生が小学校で授業をしている。入学して不安に思ったら、何でも相談していい。担任や校長先生、スクールカウンセラーも置いている。市にはスクールソーシャルワーカーもいる。自分の困ったことを、まず出すということから始めていい。親御さんが1人で私が悪いからと抱え込まないで、ちょっとした悩みも自由に話せる、そういう関係ができるはずと思っている。ネウボラ推進課は18歳までいつでも相談できると保護者が知って、感謝されたこともある。ネウボラ推進課で相談したり、そこから繋いでくれたり、そういうことができることを知らないかもしれない。愛着障害について医師の講演を聞いたが、手を握るや抱っこするとか触れ合うことで、子どもは安心して生きていく力が湧くとのこと。それは科学的にも証明されている。そういうことが大事だとみんなが理解すれば、やりやすくなるのでは。みんな悩むのは当たり前という共通理解を持って、子育てや教育をしていけたらと思う。

委員

周知の問題は。

委員

学校からチラシは配布している。自分のこどもの今持っている悩みと、ここに繋げていいのか分からない。

委員

保護者が簡単に学校に訪問できない。

委員

安心して話せる人が何人いるか。

委員

学校にも行きにくい状況があったり、どこに行ったらいいのか分からず抱え込んでしまうという状況があるということが分かったので、それに対して今後どうしていくのか検討していただきたい。

委員

学校も保育園・幼稚園との連携が大事ということで、先日、保育園の様子を見に行った。これはうちの学校だけでなく、北杜市全体で行っている。北杜市は他の自治体に比べて丁寧にやっていると思う。日常的に保育園と行き来ができればよいが、なかなかそこができていない。コロナ以降、行き来の状況が変わり、繋がりが弱くなってしまった部分も意識していかないといけない。ネウボラ推進課や子育て政策課に学校の方からも情報共有しないとならないと思っている。ネウボラ推進課、子育て政策課、かざぐるま、教育委員会からも来てもらって、様々な立場の方と話をしている。今まで知らなかった情報を得ることもある。学校としても、各部署との繋がりが大事。学校の様子も知ってもらい、色々なことを共有できればいいかなと思う。

委員

小淵沢中学校はサッカーのクラブチームの寮生がいて、他県から来ている子が多い。親御さんも遠方なので、保護者のLINEを作って学校の情報や困っていることを共有している。学校でもスクールカウンセラーが来校して、いじめや子供たちが不安になることに対応してくださっている。愛着障害は小さいうちだけじゃなく、大人になってから出ることもある。里親をしているが、家族からの愛情が掛けられていない子は愛着障害が出やすい。今の子供達は家の中でもゲームをしたり1人になることが多くなっているので、親が見守ったり愛情を注ぐ時間を作るというのが一番大事。中学生になると思春期ということもあり、色々トラブルが出てくるので、そこももう少し何かできればというのは常に思っている。

委員

計画が策定されたばかりだが、様々な問題があるので事務局でたくさん検討していただき、今後に生かしていただきたい。

学童で28名もオーバーしているところがあり、職員は配置されていると思うが、面積的には問題ないのか。

事務局

あくまで登録の人数であるので、実際の利用人数は下がる。高根東については支援員の人気もあり、人数が多い。

委員

職員は加配しているか。

事務局

基本3名体制のところ、4名体制としている。

委員

北杜市でトワイライトステイも利用できるようになったので、子育て情報のところに掲載をお願いしたい。山梨県がビジネスセミナーを開催しているが、夜間の開催時にこどもの預け先があると参加できキャリアアップに繋がるので、ぜひトワイライトステイの周知をお願いしたい。

(2) 母子保健について

－資料に基づき事務局から説明－

委員

健康教育の食に関する学習とあるが、食生活改善推進委員会では北杜高校で調理をしていたが、学校側のカリキュラムがいっぱいで時間を取ることができないと聞いた。高校生は卒業後に自立して自分で食事を作るということを、生徒達に覚えてもらいたくて、食生活改善推進委員会でも何か出来ることがないかと活動している。カリキュラムがいっぱいとのことだが、学校側に時間を作ってもらうことはできないか。

事務局

カリキュラムの関係上なかなか出来ないが今後検討したい。

委員

北杜高校は毎年行っていたが、帝京第三高校もあるので直接個人的に伺って出来るかどうか話をしたいと考えているが、学校に行っても教育の問題があり簡単には出来ないことなので、市にも協力していただいて活動出来れば。朝食欠食のグラフを見ても増えている。女子は中学生でもダイエットで給食をあまり食べない子がいる。やはり食べるのが大事。市にも協力していただいて、食生活改善推進委員会としても出来ることはやっていきたい。

委員

食に関する学習はネウボラ推進課から委託をしているのか。

委員

商工・食農課からの依頼で、保育園で味噌作り、小学校では豆腐作りをしているが、上の学年ではなかなか活動が無く、中学・高校の若者世代にも食生活改善推進委員会で事業が出来るように市にも協力してほしい。

委員

各町で中学校統合説明会を開催している。センター式給食だと栄養教諭が複数の学校を担当している。自校式給食にしてもらえれば、栄養教諭が自分の学校の指導が出来る。災害時の避難拠点にもなる。この会として自校式給食を要望してほしい。

委員

この会としてか。

委員

皆さんが様々な立場から自校式給食をと意見を述べてほしい。

委員

食生活改善推進委員会の方の話を聞いて、中高生にも指導も必要と感じた。

(3) その他

－資料に基づき事務局から説明－

委員

たくさんの方がこどものことを思っていることを感じた。北杜市は施策としては相当やっていて、本当に助けられているということを一子育て世帯としてありがたく思っている。もっとそれをPRしてよいのではないか。

委員

自分のこどもも病児・病後児保育園を利用したことがある。共働きで預ける際に、申し込みから預けるまでについては、もう少し議論をして預けやすい環境というのは必要。保育料が無料もありがたいが、申し込みから預けるまでの時間が長く掛かる。スピード感についてはこの会議でも議論してよいのでは。

委員

施策について説明を聞き、かなり充実しているのでありがたいと思った。入学予定のこどもがいるが、就学時検診でもサポートしてくれていると思うが、そういった場がもう少しあれば。

委員

食に関するところで、保育園でコロナ前にもしていた試食会を、昨年度から栄養士が開催してくれて、保護者にも給食の味を知ってもらっている。栄養士からの話もあり、このような機会も大切にしながら、小さいうちから食事の楽しさや大切さを知らせていけたらいいなど改めて思った。

委員

様々な施策があり、子どもや親に寄り添っていただいている。それに対して、保育士等実際に受け持っている方の負担が大きくなってはいけないので、その部分もあわせて進めていけば、離職も減り働きやすい環境になってもっと良くなるのかなと思った。

委員

ファミサポの利用は、保護者が就労している・していないに関わらず利用できるということによいか。そうなってくると家庭で子育てを一生懸命している方に対して、もう少しファミサポ利用のハードルを下げるというやり方を研究していただきたい。子ども計画策定にあたり、PDCAサイクルはどのような形で行われるか聞かせてもらった。まさにこの会議がチェック機関の1つ。最終の会議が1年間を振り返るチェック体制ではなく、たくさんの意見が出る毎日がチェック体制になっていると思っている。様々な立場の方が対面で会議をするのと、議事録を見るのでは熱量が全く違うと思う。

委員

この会議は様々な立場の方が、様々な意見を出してくれるので、とても参考になり、いい会議だと思っている。

事務局

ここに書かれたPDCAサイクル以外にも様々な意見をいただいて、勉強しながら反映していきたい。

委員

こどもランドはどうなっているか。

事務局

高根の保健センター敷地内にこどもパークを整備している。大型遊具の設置を進めている。11月オープンを目指している。設置された遊具もあり、順調に進んでいる。こどもランドについては作らないことになっている。ぜひ多くの皆さんに使っていただければありがたい。

委員

武川と小淵沢に作る三世代交流スペースはどうなっているか。

事務局

5月末の入札で業者が決定し、整備していく。早ければ夏前にはと思っているが、製品が発注してからどのくらいで納品されるか見込めないが、なるべく早くと考えている。

以上